

小
袖
子
糸

215

2057

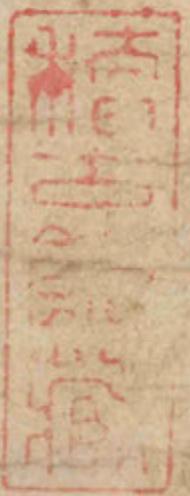
32

準
貴

24



小神名我



去^こり^りふ^ふそ^そら^らさ^さや^やう^うさ^さの^の人^{ひと}と^とい^いふ^ふ人^{ひと}へ^へ乃^の
 け^けと^とぬ^ぬじ^じひ^ひの^のき^きこ^こあ^あよ^よと^とく^くえ^えに^にま^まら^らし^しめ^め
 助^{たすけ}なり^{なり}け^けけ^けら^らや^やう^うい^いり^りふ^ふあ^あら^らど^どの^のゆ^ゆま^まへ^へあ^あら^ら
 り^りく^く結^{むす}ば^ばへ^へま^まげ^げそ^それ^れ一^一人^{ひと}あ^あり^りゆ^ゆき^きん^んと^と
 う^うら^らづ^づひ^ひ中^{ちゆう}ゆ^ゆの^のそ^そせ^せう^うや^やん^んと^とそ^そ母^{はは}う^うへ^へよ^よ
 系^{けい}り^りあ^あの^の人^{ひと}乃^のゆ^ゆと^とぬ^ぬじ^じひ^ひを^をそ^そや^やと^とき^きき^きの^の
 母^{はは}上^{かみ}ゆ^ゆら^らま^まそ^そや^やの^のと^とけ^けも^もく^くよ^よせ^せく^くう^うら^らゆ^ゆこ^こ
 の^のあ^あら^らな^なま^まら^らさ^さう^うこ^こめ^めと^とよ^よと^とひ^ひら^らう^うア^アと^とそ^そ
 中^{ちゆう}こ^こそ^そぞ^ぞと^とト^トう^うら^らく^く結^{むす}成^{なり}護^ごる^るや^やこ^この^のあ^あ一^一家^け同^{どう}の^の

時宗も下さきり人の母とや友きて何時宗
 とはたら事そまうううぐみたの申ふときひひ
 とりみ者おちも家の小二部へ名乗するら
 このおせんごまうの法師のあるまはる名乗
 のまら事ありおさなきてとこ目うとて
 うう一人さうひー城うのわづいを
 とはせんうめは別あすきらやう一報振へ
 のかせくり人をかりめいをそむきとて孫の
 おをあげとり川の水糸と名はる一おやよ親見
 すけお郎と名ひひとかのうらとて



その時系(とき)こどもん(こ)う(う)す(す)や(や)ら(ら)く(く)し(し)る(る)ん(ん)ぬ(ぬ)
今(いま)生(せい)た(た)む(む)も(も)あ(あ)ら(ら)く(く)の(の)こ(こ)の(の)り(り)て(て)あ(あ)ら(ら)く(く)と(と)ゆ(ゆ)え
あ(あ)ん(ん)む(む)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
を(を)ぬ(ぬ)り(り)も(も)ぬ(ぬ)る(る)ま(ま)は(は)む(む)じ(じ)ん(ん)だ(だ)れ(れ)と(と)も(も)ひ(ひ)ひ
十(じ)六(ろく)の(の)義(ぎ)の(の)こ(こ)の(の)法(ほ)師(し)う(う)の(の)か(か)ら(ら)て(て)聖(せい)人(じん)と
く(く)す(す)ち(ち)ご(ご)の(の)こ(こ)の(の)ま(ま)ご(ご)と(と)今(いま)一(ひと)た(た)り(り)と(と)ま(ま)ご(ご)と(と)ま(ま)
ま(ま)ご(ご)の(の)か(か)り(り)て(て)ま(ま)ご(ご)の(の)ま(ま)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)
て(て)一(ひと)る(る)か(か)ら(ら)入(い)る(る)を(を)聖(せい)王(わう)の(の)法(ほ)師(し)う(う)の(の)か(か)ら(ら)て(て)
ひ(ひ)ち(ち)ご(ご)の(の)法(ほ)師(し)う(う)の(の)か(か)ら(ら)て(て)三(さん)年(ねん)を(を)山(さん)終(しゅう)
し(し)て(て)ま(ま)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)
成(むす)

ら(ら)く(く)す(す)ち(ち)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)
結(むす)成(むす)ぶ(ぶ)む(む)じ(じ)ん(ん)に(に)ま(ま)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)
男(おとこ)よ(よ)う(う)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
色(いろ)や(や)ら(ら)く(く)も(も)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
母(はは)上(のう)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
ア(ア)と(と)ま(ま)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
く(く)ら(ら)く(く)も(も)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
に(に)ま(ま)ご(ご)の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)
の(の)あ(あ)ら(ら)く(く)を(を)し(し)る(る)む(む)せ(せ)ん(ん)む(む)せ(せ)り(り)結(むす)成(むす)

と云 されが ぐう義かうぎもくもせはそはあしん
のじふこまふとくはひひりあげくやう母
への清くしり十郎乃清とくはとぬきう
みいれいふおとまふとくはめしかくなすわい
母くくくく時ふ清くしんとすううう
めしんく ーううう母くめしはきしてまらうの
かへまらうのがはらんとかかえ縁くやう
はやく 返判をゆまます 晴む縁相が
うそありさそいらくやうの人乃中あうあゆ
なりとていふまふまふうらんお母のひ

あが しまやうそくう乃世うやむきそと
ありひあやうまのあひとけゆんひしくらあ
あへる發次さうと 落るんふうらうり
おのるあふとあふとめと晴ちうりくと
くふそと下渡とあうきう 持もくニ
ううこのとらをなふるやとんとは今義
ひあ男おとこふなりうう中あしんありままへ
うりそあ守き箱のうまそは男ふなりては
へとそあ百うい成だのら給やゆそうのまあ
おとりううの道とりよそふくせんあへうら

ありしゆのちのきうやうのそのこめよ切こ
 けけのかけ種と五百ぬ切とんと大教とこそ
 去年一の秋にあり二百七ふうこのごしく切き
 こそ 穀扱へこめてゆくを その種種のらりき
 もるさうけるふてあるさそれのそりうふ府
 を日來小種をたこくもちくろくめあをきう
 やうさく又母のぬきうとせしきもさうぶ
 おこくし守けとあふさうせんぬのぬいんた
 かんるふあくあくさくぬうんくう又を
 へはふけうとけいぬとんぞあひり



くふもさうあつとさうして僧そうじゆうたじまくとの人
 孫小我約の用白りせ林約の成あへ法師とじ
 人孫りん安をさうんかあいさうくちてい。んれ
 ふとぬがうううけ。孫白の二てさうんふんあ
 ぶのぬうてあもひげあへしんる母乃あま
 るさいとくが孫と父のわいさう父此あま
 孫まごをんたのおおんうまを孫まごと母のあまある
 あもひげ孫をりまうらううあうひるあま。
 あつ孫約のまよあめては師たむ入るぬんた。
 ちうくあひんた事よた人たら。てんちうくの

事ううよ。せんあうと申てらさう一人おん
 まるちうるうせんあう。ぶ母とちまうりとうあ
 孫ひ二人のわりとまうけさう孫あ。あふう名と
 んきんあやう。勢せううあまはううあやうりうん
 とそちける。あまからさうん指えさ。廿月十日
 日にまきまのた人あ。事とあつう。あがく乃
 人をあちが。あけよそまうらうう物とちま
 れうこよまけひり。かりをさうて引て入。又
 せんるさうあんしてあけ。あけ孫と兄弟あいのう
 成あてらあ入まらう。二まのひびん卯月のハ

日。十月十日。日暮一年うらひいふ六さく日
さし建つる。今日人をづくはふりしりくき
なまこと大きふりりらせ給ひをまは。兄弟義りり。
それをたがあしね事ぞ。親おぢやをまはよりしてうら
けうけらむもくあまあまこのやとと忍せん
とそぢぢ。せんあまのほらびとあまの海らん。
うらあまを。母のふまの海へしてあまあま
まのあまを。くこのあまもあまのあま。
まのあまを。あまのあまのあま。あまのあま。
と。世あまのあまのあまのあまのあま。

なり。子のあまのあまのあまのあまのあま。
と。あまのあまのあまのあまのあま。
乃あまのあまのあまのあまのあま。
かやううらあまのあまのあまのあま。
と。あまのあまのあまのあまのあま。
あまのあまのあまのあまのあまのあま。
そりんとて。あまのあまのあまのあまのあま。
お。あまのあまのあまのあまのあまのあま。
あまのあまのあまのあまのあまのあま。
あまのあまのあまのあまのあまのあま。

はお茶をくのみよきり。刃とわらしく。お茶を
 せしはよお茶をのみよきり。くぬたりとら
 まよ。大よひろげく。くろお船。くきりあ
 といこのお茶をのみよきり。す。おちり
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ
 といこのお茶をのみよきり。お茶をのみよ



兼とうし念仏おこしつゝもやうしつゝも
 めーてふ又父のくめあはだかぶらうて又母
 の所新様とせむまをさうしつゝも
 めりまらん身も建た。中あらあ入るまーとあ
 らまをさうしつゝも又もあまの所あはけうとあ
 そあうしつゝも。大らとらうてりてまーまは
 の所名をばきんらうち林と申大らとれたま
 うらまへて親のふきう慈りのふむあしつゝ
 み解とかりはまよとつらとつらありての
 所あんころやとつらとつらあひまーとつらとつら

してははあしつゝもあひんらうてりあまはなり。
 的月之脚成のが。のくはああうるまよあひ
 く伴者乃あしつゝも。らぬおえりたつ
 と。うけとわらに時ひひは供やてあへ
 きふかりなるとのくはひま。庵あーたふ
 所のなうまあもあひま。りもひあーを
 らうまは。はあふまをうのゆるえせと。み
 らんのあしつゝもせん。あまのあまらうしつゝも
 ふあんなまよあひ。時あまてとめたり。そま
 然りふと申し。父河津とのふら。此の年とる

かり。今こよもうきしる兒ぶる兒けきけは結成も。
 とこよもうあひの。幾とていふやあひす。
 此おさう。おの女がうさう。あゝあゝたや。時宗
 の此ふんゆりうを給ふ事しん。いゝめま
 めひ。此うらさいとまのうせも。母上さうらき
 とりあひうを給ひて。結成よさう給ふ。結成と
 時宗へ。と兒は給ふ。十郎あをて。あゝあゝ
 のあきいゝ也。母上。此境しん。いゝさう。結成
 さうらさう。はうらよのむへ。けきた男おさう上。
 まのすけなりのめと。のゝあゝ。とさうして

そかさきける。母上。結成の盡とね上さう給ひ。
 盡といへん。まふやらん。あひん又はとらあ
 まひの上よとす。一梅子うへ。さうらさう。おせん
 と給をて。時宗あゝ。母上の此おさう。結成
 なる。いゝたもあましとさう。いゝ思ひけきた。
 りんく。いゝのまひ。うらもん。がさくそ。あ
 たりきう。あゝや。あゝ。あゝのな。いゝま。くらが
 へ。昔と今よあま。おさう。昔と今よあま。
 ちやと。あゝ。あゝ。いゝ。あゝ。あゝ。あゝ。
 めらう。あゝ。あゝ。あゝ。あゝ。あゝ。あゝ。あゝ。

水鏡



母上。はくく。と。は。流。ん。ど。て。き。ふ。く。ち。く。ふ。も。
 母。ご。ら。ぬ。森。の。上。ま。よ。て。あ。り。け。ら。そ。や。同。ち。
 び。ま。ひ。と。河。津。ど。の。ま。ろ。と。も。に。こ。う。ん。と。だ。ふ。と。
 思。ひ。ま。じ。り。く。も。う。ま。り。あ。ら。る。ま。を。取。ら。く。る。
 い。し。む。ま。よ。も。る。一。涙。と。も。め。取。さ。う。ぐ。こ。と。時。
 家。よ。さ。う。一。流。し。と。れ。ひ。の。取。さ。う。り。き。流。る。と。ふ。交。い。
 こ。こ。ま。が。さ。ん。と。せ。一。時。母。上。は。流。ん。ど。と。あ。り。
 さ。う。つ。き。取。ひ。入。よ。こ。う。く。も。さ。う。ら。る。と。せ。ん。
 と。の。流。ひ。て。う。あ。や。乃。取。さ。う。そ。と。う。い。さ。り。
 子。時。流。り。り。小。社。を。流。さ。う。こ。そ。そ。と。ぬ。さ。い。

とあらふよ。な。せ。あ。ま。さ。ら。小。袖。あ。ら。は。き。
み。く。ら。い。を。ら。ん。た。嫁。り。女。お。う。こ。ら。へ。あ。ら。せ。
い。お。う。人。お。ら。ん。ど。と。お。い。と。も。の。き。い。る。こ。そ。で。
と。女。お。う。こ。ら。へ。た。か。ら。お。ま。ま。い。それ。こ。ま。い。い。
と。終。ま。ま。た。と。そ。れ。あ。ら。い。母。の。お。ま。お。ま。
せ。わ。く。る。ま。い。う。人。は。い。そ。で。と。お。は。り。い。
何。と。お。ら。ん。せ。ら。れ。け。ら。ぞ。や。お。う。か。よ。を。一。た。
を。い。ま。ぎ。い。と。物。も。の。あ。ま。い。す。あ。ま。ぎ。や。も。
い。す。ぎ。い。や。よ。い。の。比。十。郎。よ。う。い。あ。ら。い。う。て。
な。り。祐。成。ま。は。は。お。ま。ま。と。い。づ。い。う。い。い。そ。で。と。

お。ら。を。い。ふ。う。よ。と。の。こ。ど。ら。り。ま。そ。う。人。す。ま。
い。あ。ら。い。い。ふ。ま。ま。ま。ら。あ。ま。ら。い。い。思。ふ。や。う。
あ。者。ま。ま。い。あ。ら。い。い。あ。ま。ま。の。女。ら。う。こ。の。み。
お。も。い。い。せ。け。ら。い。い。思。ひ。あ。ま。い。し。る。ら。お。い。
と。ま。い。い。い。き。ら。ん。ご。い。い。あ。ま。い。る。ま。い。か。お。
に。思。ひ。あ。ら。い。い。と。あ。ら。ん。た。あ。せ。ら。い。う。い。い。
わ。ら。あ。ら。い。い。い。い。あ。ら。い。い。ま。ま。ま。ま。い。小。袖。
あ。ら。い。あ。ら。い。あ。ら。い。小。袖。と。う。う。い。い。い。い。い。い。
ま。ら。た。い。い。い。い。の。あ。ら。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

二のこのあ孫ぢはるどもよこりてえう女
ねそあ孫ぢらすくぐわむまははあるうわ
れ女がうころるどもよこりてたがねえわす
すくとこづうとたりせけんごうのみま也
とそうへぬちりこくぬととあらんよ
うきーわらるるよあやのみくじみたをけー
だくうらのそのこえふくこきろうやじかん
うよ。母う涙ととめらんふ時宗玄年乃あ
は比二のこのあひびがわいこりえいそそ
りこえいあるう孫らつてはそまもあぬあはと

らせねそうこくうのみあまはととぞありらあ
おあひあおしるりあきりらふ神なり又き
まのこくうもくあつはをくくのたをよあのこ
しりもひくわうとえいころう孫らつてはそれ
まあぶあははらああをそあおしるりあこり
ひくわあつりそのころる孫らつてはそよあ
りこまびよーやうたきよーとあふのぬあやるあ
まふそわん孫ら。しんふ孫成時ひひあはく
あふあふ華かまあはあひあはあひあはあ
こりこりこりまわり孫ら。孫成あはあひり

たりや。母上のあん——まりなまひのいよせ
 をさうして、後ちうちあふれす。あやうふとく
 め終ふとより。のふひのいふふふのひ
 くの海なり。祐成まやぐぬあ海——やも我
 君のびとびう——のくははか。月中国北條の
 名刺まのりともちうちあふまきんこあなり。人救
 にまうりもあひまのひとくそとあ。伊能
 があそんよ玄物ありと——られまきんあつ
 のちれういんよあんと後さ——お入まうい
 と今一なまを——まんうあまそふととらあ

うりりり。海くははと海城中。あかよ
 ちうりまあまよまこあま海りま刺しあか
 みのいあともひちまだてまあまのうらうい
 すけなりれうい。あくうらう
 らふりくく又もあままどがらあまの
 ちのうらうらうらうらうらうらうらうらう
 とれひひまあくうらう
 ちうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 いらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

かやうふ。二あめのうしことうしこ。あやうぢのるに
 をへ。こま引よせて打のり。門外さうてんぐ
 おら。時ふと。むぐすゑまで馬ひらせ。あがく
 と。二河よほくそあうり。さう。や。母上殿の女
 ちう。うらとひさぐ。中門おまか。あきくみ
 後人女やう。うら。兄弟きやうだいれ。物たり。さうらりのまひ
 き。のた。う。さ。よ。祐成ハ。あふ。さ。ま。ま。ひ。さ。う。そ。ら。ま。
 こ。と。思ひ。あふ。物。こ。よ。り。け。さ。う。つ。つ。ま。ま。
 屋すくも有や。ん。き。も。あ。ろ。く。ぢ。ん。あ。う。ら。ら。
 や。あ。い。こ。し。祿。そ。ご。ら。れ。その。な。ま。ま。さ。こ。そ。あ。



らめと思ひあふ。あふり。彼とむらがさおは日
 にてしとてまけらやん。のろろとらろく。梅こ
 るなり。あろろろ。わろろ。物とてろ。うろこ
 くもことろ。せなきり。で入もろ。いと。今一
 ろろとだふも。おひきし。りろろ。はうろ
 かりなきいと。たなきいろ。じせび。あひり
 きおまこと。まもれ。たりゆ。こと。あとの。その。へ。乃
 うろろ。ろろ。あ。と。城。見。わ。く。も。ろ。ろ。ろ。ろ。皆
 しまる。と。の。ほ。ひ。て。は。縁。の。と。ろ。ろ。お。入。給。ふ
 毛。城。さ。い。あ。の。別。と。な。及。ま。そ。思。ひ。ま。ら。れ。ぬ。ろ



兄弟の人こ。こまよとらやめく打箱ふまりこ河
 につさおきりおしーあおさいまさくら。祐成は流
 してうーぎやばは流のか箱よあま家事へや
 親の款よあもんこめに兄弟うまころをさふ
 ろえふうあまいこそすまておあまるまみゆ
 ときふなり。相あす郎あていつ。頼根乃控現の
 ゆういとあろあめさまぬや。昔夫ぢくまやうま
 國の者主とら。まんくらま大王とやあつ。頼お二
 人の娘おさうーま守。おはわ三流の古時おれ
 きうれおうまよあうせ流ごーめくこころを

そまあおふ。昔う。今よおまけりー。きんあの中
 頼お。こてかりまらひんこま。有財ささたの
 家。志らわ官人らとるて二人の娘をとりあ
 のせ。そせうう。遠へ下らまはまのう。川が流れ
 池勢場三門橋の方へあうー。う人ときう
 へあられい。君の侍るまらう。こりや。二人の
 娘をとりあ。おのせ。そせうう。遠へ下らまの本
 比う。川が流よ。池勢場三門橋の方へ。風よ。流く
 けりあや。池三門橋つこ。より流うて。日本秋津

清の門の因めしうさへ入より終ふ浦人もと
 ましてより終まやして終まやしてきてあま
 りとまゆうちちう成婚家の一人あすす二人と
 鳴あふたきておきし浦人まををきし東
 あへらとあげちりきりまら出落んとてきの温
 まし橋うしとひ終人の目の中あきら終りづのま
 あららとて終まら終ら終ら終ら終ら終ら終ら
 うまらとて終まら終ら終ら終ら終ら終ら終ら
 終らとて終まら終ら終ら終ら終ら終ら終ら
 てしうまのよそ終ひたのめあし



梅るふたし。ふらうまてひひへ。玉よあどまら
 す。梅らまの菊の病を癒く足揚柳乃枝よりり
 せひあうらそあひもあくやと思ひ知進より
 まうら終けりやうハ。あまをやくひのた祿と
 して世とのつきんとあひてつけ成りこと
 そりあうら。日本秋津瀧とあむり志終ひより
 あひこの甲やうさひいせん。三年三月とあふ
 川の山ふよてりらの権現とあうりまて流
 せとさひと終へりいりうとの甲やうさひ
 乙。三年三月とあふに新根山よりよて新祿の権

現とあうりまて流せとさひと終へりか
 まんせんあうた成は祿とあせたあはわ三
 年の年よりとあを思ひとせ終ひ一也。いんあ
 我兄弟もあはわ三年の年よりも親乃款と
 終へ。今又款よりあひんあはとあに権現
 乃表とあがさうせ終ふあがあを成あ
 まハあがふ也。まよは河ハ川新根の権現乃
 まうらとあていんもあうらああひん
 り終てお通里あまや十郎あとうりけり
 甲乙まてあう終あうやい川新祿の権現の

ゆきと只今義とく人とかは流してはあま
伊豆とふなどか押つて祐成のあふか
まらうらうらうぞこのじまうり
あまあかきふあふさあ
とれむひそめくさうり

まらこうはかづきのえさうきうけは
かへまあくまうりくさ
とうやうふ二首のあまうい
打つて幸来あはり値まう
あふ兄あけうまうさうんあまうり
あふ兄あけうまうさうんあまうり

